

第32回 小学館 大賞 300万円 ノンフィクション大賞

最終候補作発表!

さる8月末日に募集を締め切りました本賞には、80作品を超えるご応募をいただきました。その中から下記の4作を、最終候補作品として選出しました。この4作品を選考委員会(酒井順子、森健、河合香織の各委員)に諮り、12月中旬までに大賞が選出される予定です。新しいノンフィクションの才能にどうぞご期待ください。なお、大賞受賞作はホームページ、および25年12月～26年1月ごろ発売予定の「週刊ポスト」「女性セブン」誌上で発表します。お電話でのお問い合わせにはお答えできませんのでご了承ください。

最終候補作品 (タイトル五十音順)

『奇蹟の蔵書 井上ひさしと私の16000日』

遠藤征広 えんどう・まさひろ (団体職員、70歳)

『32人の男と1人の女が暮らす島 —「アナタハン島事件」顛末—』

フリート横田 ふりーと・よこた (文筆家・ノンフィクション作家、46歳)

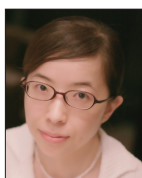
『地面師は笑う 積水ハウス55億円詐欺事件、ある実行犯の告白』

河合桃子 かわい・ももこ (フリーランス記者、48歳)

『できるならそうしてる 「内密出産」と愛着・発達障害のあいだで』

福島寿紀 ふくしま・かずき (時事通信社・名古屋支社記者、27歳)

選考委員



さか い じゅん こ
酒井順子

エッセイスト。1966年生まれ。大学卒業後、広告会社勤務を経て執筆業に専念。2003年に発表した『負け犬の遠吠え』はベストセラーとなり、講談社エッセイ賞と婦人公論文藝賞をダブル受賞。女性の生き方、古典、旅、文学など幅広く執筆。『ユーミンの罪』『家族終了』『女人京都』『老いを読む 老いを書く』『松本清張の女たち』など著書多数。



もり けん
森 健

ジャーナリスト。1968年生まれ。2012年、『つなみ』の子どもたち』で第43回大宅壮一ノンフィクション賞受賞。2015年、『小倉昌男 折りと経営』で第22回小学館ノンフィクション大賞、第48回大宅壮一ノンフィクション賞(2017年)を受賞。2023年、『安倍元首相暗殺と統一教会』で第84回文藝春秋読者賞受賞。



かわ い か おり
河合香織

ノンフィクション作家。1974年生まれ。神戸市外国語大学卒。2009年『ウスケボーイズ 日本ワインの革命児たち』で小学館ノンフィクション大賞を、2019年『選べなかった命 出生前診断の誤診で生まれた子』で大宅壮一ノンフィクション賞と新潮ドキュメント賞を受賞。『母は死ねない』『老化は治療できるか』など著書多数。